

追悼 親父さんへ…

松崎町遺族会 齊藤卓一郎

親父さん、北ボルネオの地にまた立っています。そして親父さんの靈感に触れることが出来、感慨無量の心情です。

前回の慰霊訪問から13年が経ち、もう一度来たいと思っていたが、今回は姉（節子）と二人で来ることが出来ました。親父さんの亡き後、私達兄弟三人を育ててくれた母は平成16年1月、88歳をもって他界しました。

戦後の混乱期、大家族の中で本当に頑張ってくれたと、子供ながらに感謝しております。

現在の我が家は妻と二人の生活、子供達は横浜、東京とそれぞれ生活して居ます。唯一人の孫は中学三年生になり、勉強に、部活にと元気に頑張っています。

親父さんが勤務した隣町の花弁栽培開始50周年記念誌「田子の花」「思い出に残る人々」の一番目に親父さんの名前があり、文面は昭和の始め農事監督として岩科出身の齊藤技手^{きぬさやえんどう}が赴任してきて、絹莢豌豆が普及し、農家の換金作物として大盛況を呈した時、その先頭に立って種子の斡旋から栽培技術指導や組合の運営に至るまで協力し、「田子の絹莢」の地盤作りに大いに貢献した。また^{そさい}蔬菜の促成栽培や果樹の接木剪定作業等も指導し、花卉栽培の開始にあたっては積極的に推進し、戦前の花作り発展に多大な足跡を残した、と記されています。私の妻はその田子出身です。科学では図りしれない縁を感じています。

人それぞれの生き方がある中で、戦争と言う非常事態の為に若干36歳で人生を終えなければならなかった無念さは想像に絶するかと思います。今、私は親父さんの2倍の年齢となりました。出来れば孫と酒を酌み交わし、ゴルフが一緒に出来ればと密かに夢を抱いています。家を守り、子供に託すまではと日々過ごししながら、ゴルフ仲間にも恵まれ、町内、近隣市町の友と月数回のラウンドを楽しんでいます。

北ボルネオの地に2回立てたことを忘れず貴重な体験を心の糧として、これからも生きていきます。

いつまでも見守って下さい。 平成26年10月26日 タワウにて

(平成27年4月発行の静岡県遺族会報より)